



図書館だより

9月 

NO.5

2011/09/01

ノートルダム学院小学校図書館

9月。昼の陽ざしは暑くても朝夕は少し涼しさを感じられるようになりました。だんだん日が短くなって夜が長くなるので、古い呼び方では9月のことを「夜長月（よながづき）」と言い、略して「長月」とも言います。照明のなかった昔、人々は暗闇の中で月明かりを頼りに生活していました。月が雲にかくれたり、月の出ない夜はがっかりして空を見上げていたのでしょうか。日本には月を表現する言葉が豊かです。「三日月、新月、望月、名月、兩月、立待月、居待月、寝待月…」など、他にもさがして見てください。



—お月見しよう—

満月は約30日ごとにやってくるのですが、中でも中秋の名月（旧暦8月15日の月）は特別です。空気の澄んでいる秋の満月は光輝いて見え、お月見にもっともふさわしい季節です。今年の中秋の名月は、9月12日です。おだんごにすすきをかざってお月見をしませんか。「竹取物語」のかぐや姫が月に帰ったのは中秋の名月でしたね

夏休みには楽しい読書ができましたか。

時間を気にせず、好きなだけ本を読むことのできる夏休み。

みなさんはこの夏休みにどんな本とワクワクドキドキの出会いをしましたか。心に残る一冊、忘れられない一冊の本。きつところの友だちを一つ二つとふやすことができたことでしょうか。

読書と感想文



まず自分にあったよい本に出会うことです。

どの本でも感想文が書けるかという、なかなかそうはいきません。本を読んでいるうちに、自分が心を動かされるような本がいいですね。よい本を選びましょう。



つぎにその本をよく読むことです。

くりかえし何回も読みましょう。



自分の経験と似ているところ、また、ちがっているところなどを、比べましょう。自分の思ったこと、感じたことを自由に書いてみましょう。



それからもう一度あらためて考えてみてください。読書感想文をかくということは「自分を見つめること」そして「考える読書」なのです。読んで考え、書くことで考えを深める読書です。あなたにしか書けない感想文めざして書いてください。

